

「食品の安全に係る 生活協同組合の取り組み」

「食品安全の明日をともに考える国際シンポジウム」
パネルディスカッション用の資料
日本学術会議講堂に於いて

2016年3月18日（金） 14：00～17：00

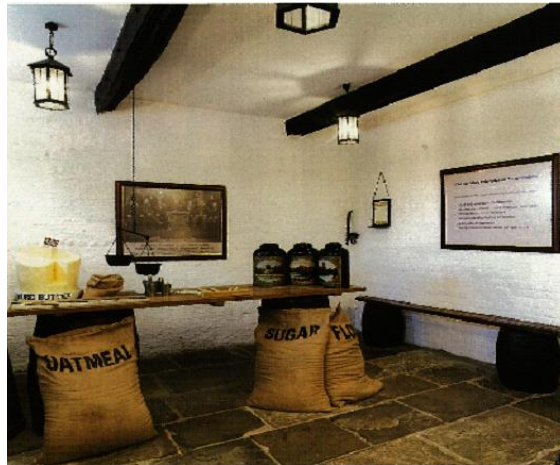
日本生活協同組合連合会

品質保証本部 安全政策推進部

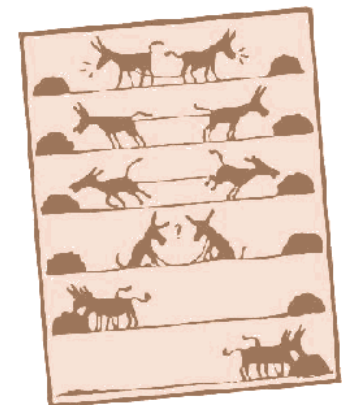
鬼武一夫



Rochdale Museum



日本生活協同組合連合会の概要



- 日本生協連は、全国各地の生協が加入する連合会です。1951年3月に設立され**334の生協**が加入。
- 日本生協連の供給高は3780億円（2013年度末）
- 会員生協の**総事業高は約3.3兆円**組合員総数は約2,700万人。**日本最大の消費者組織**です。

組合員

加入

会員生協（単位生協・連合会）

※単位生協には購買生協、医療生協などが含まれます

加入

日本生活協同組合連合会

組合員が日本生協連に直接加入することはありません。

CO-OP

日本生活協同組合連合会



- コープ商品の第一号「**コープ生協バター**」が生まれたのは1960年。消費者の立場にたった**適正価格を**
実現するために生まれました。
- 2000年以降現在のコープマークを
採用しています。
- **約4000品目（食品）を発売中**ですが、
毎月100品～300品ほどの 改廃、変更を行っています。



※ミックスキャロットデビュー（1981年）

	売上高	品目数
トップバリュ	約 5300 億円	約 6000
セブンプレミアム	約 4200 億円	約 1500
CO・OP	約 4100 億円	約 3600
CGC	約 1200 億円	約 1200
ローソン	約 1000 億円	約 1500

週刊東洋経済編集部調査 ブランド別売上高（2011年度）

2015年6月からコープ商品が新しくなりました

ブランドメッセージ

あらためてブランドステートメントを宣言します。

5つの約束

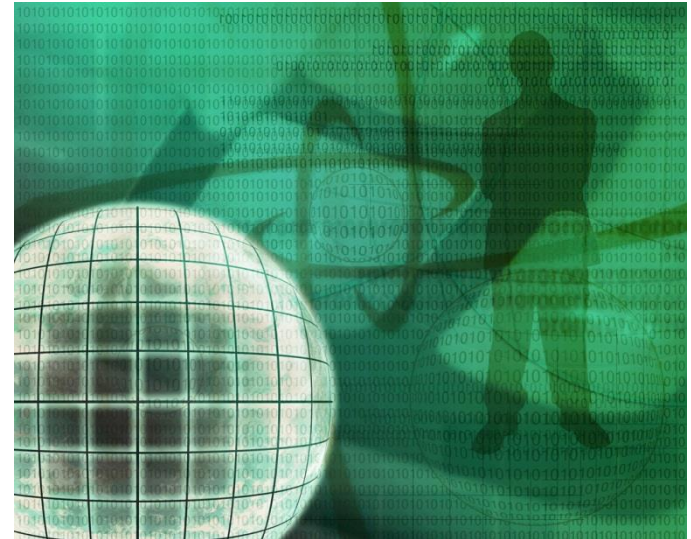
- 1) 安全と安心を大切に、より良い品質を追求します。
- 2) 暮らしの声を聞き、価値あるものをつくります。
- 3) 思いをつなぎ、共感を広げます。
- 4) 食卓に笑顔と健康を届けます。
- 5) 地域と社会に貢献します。

co-op

思いをかたちに
SMILING CO-OP

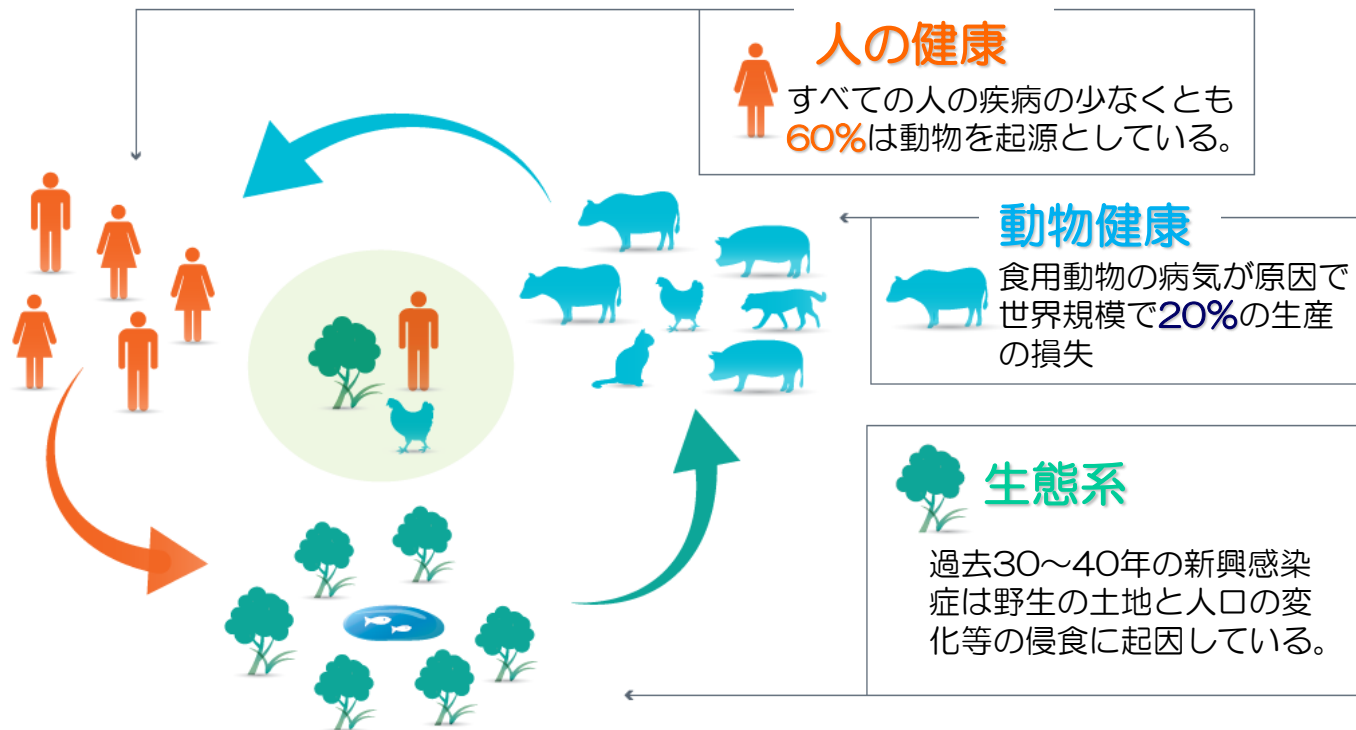


- 貿易 (trade)
- 旅行/移動 (travel)
- 輸送 (transport)
- 観光 (tourism)
- テロ行為 (terrorism)

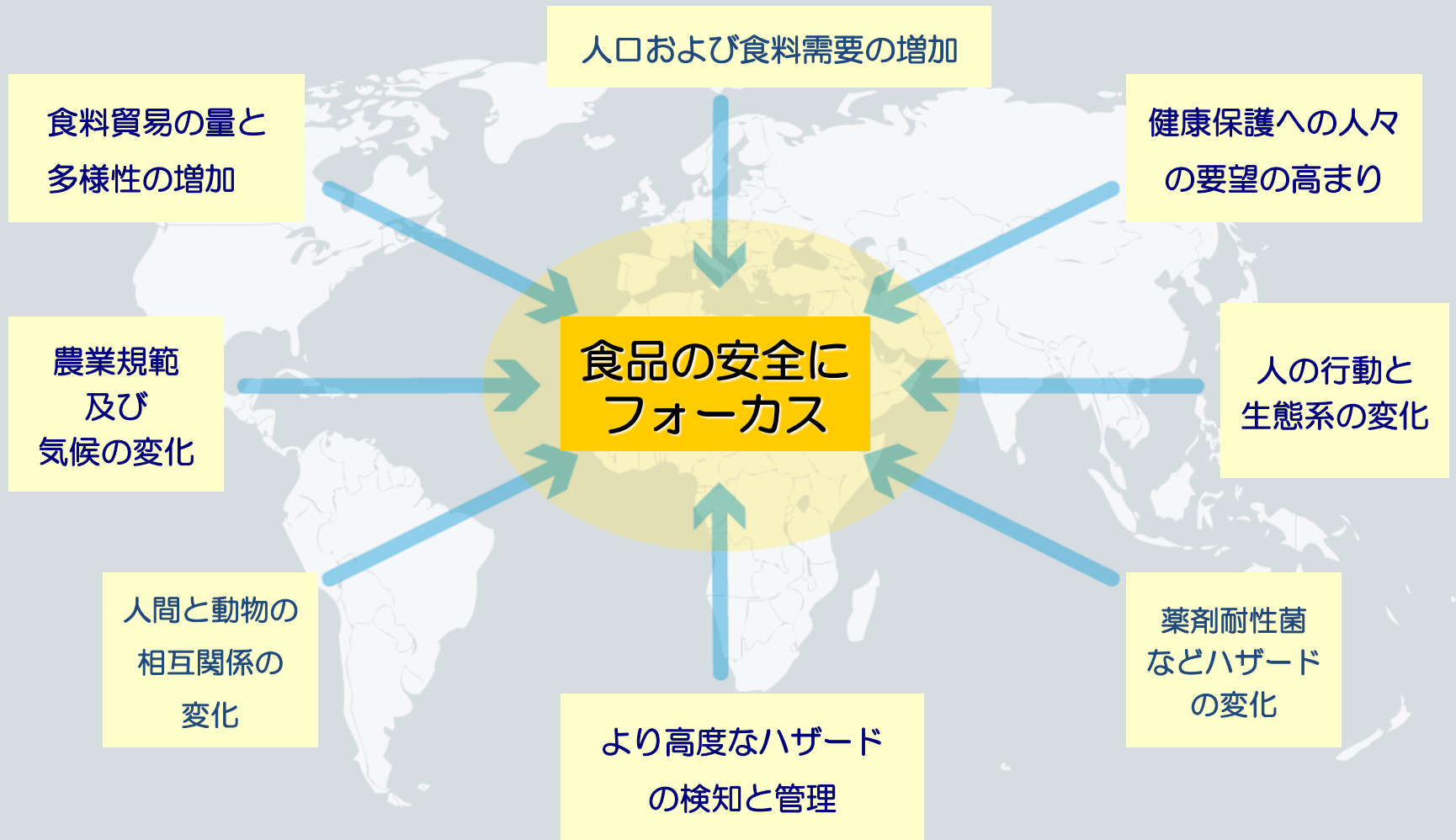


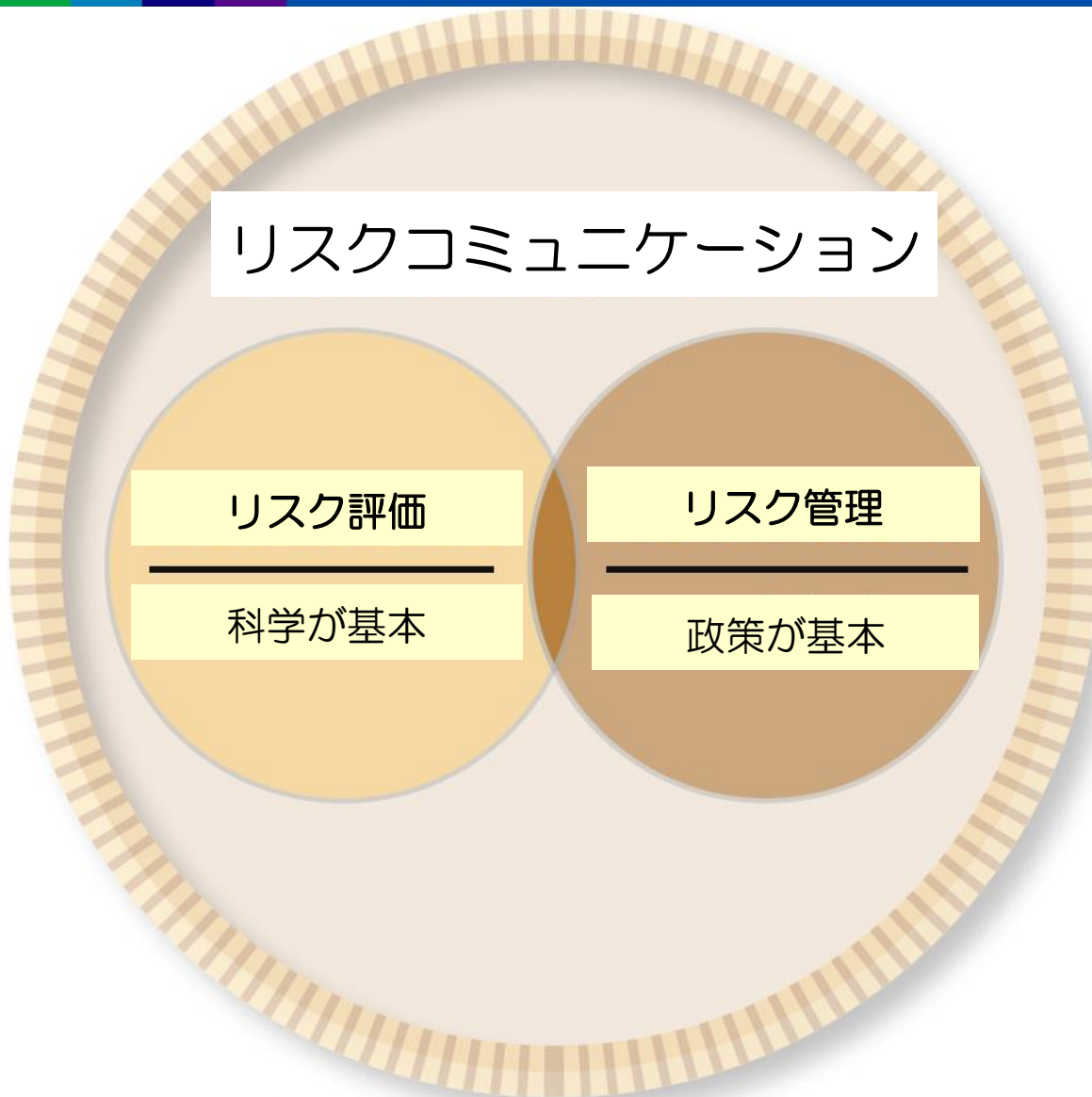
One Health

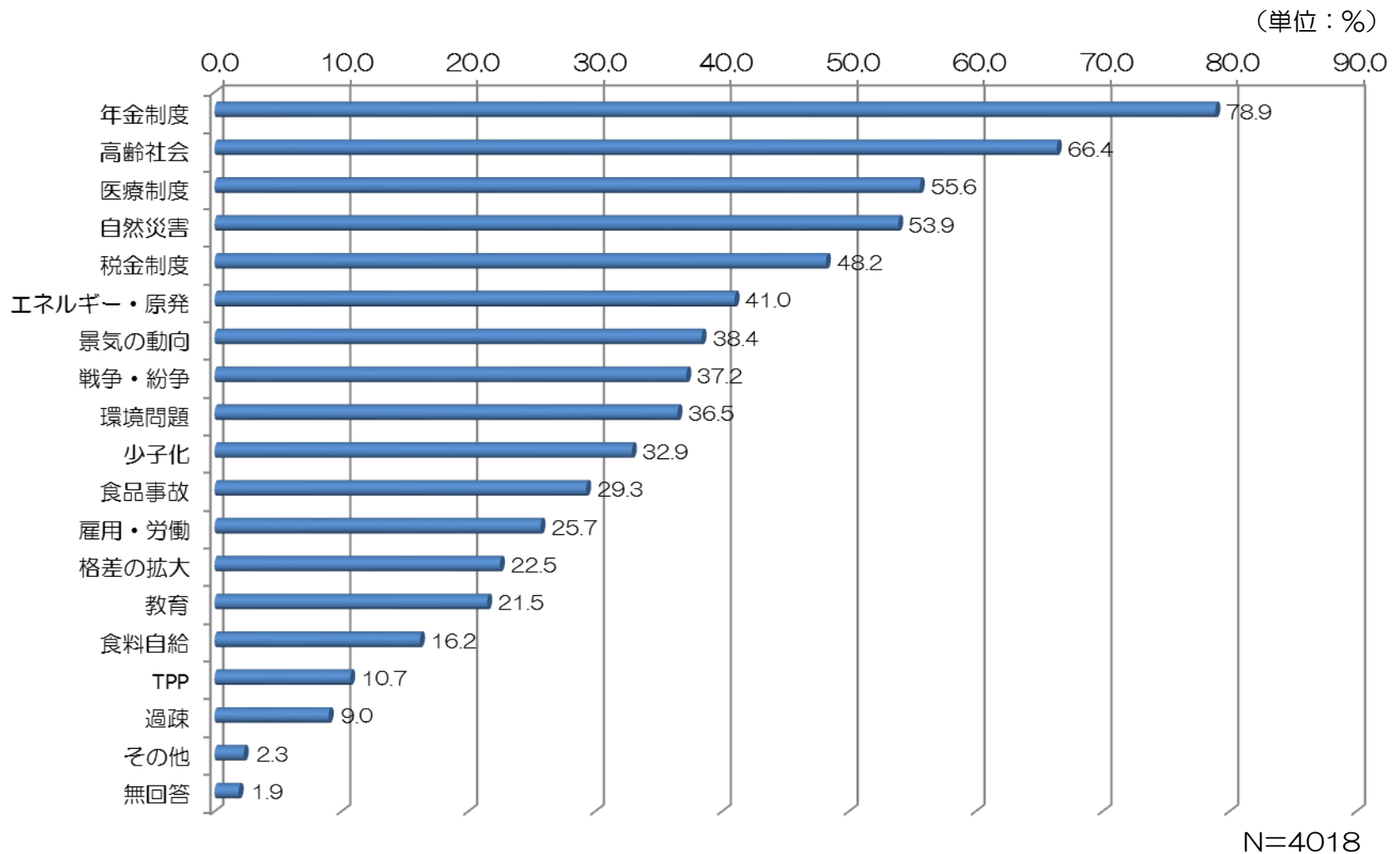
ヒトの健康、動物の健康および生態系は密着な繋がりがあある。



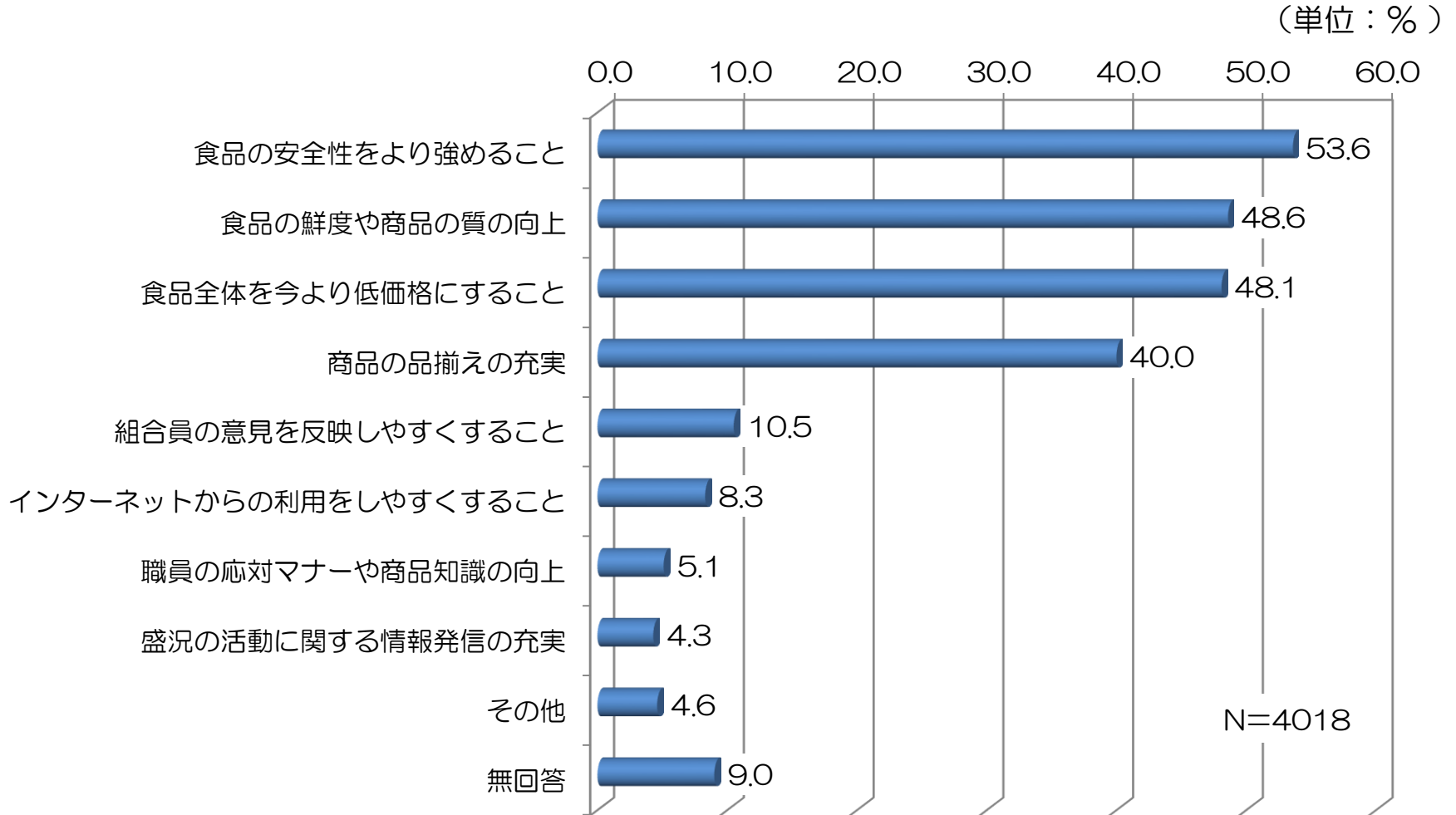
地球規模の影響—食品安全







2015年度 全国生協組合員意識調査報告書より（約4,000人）



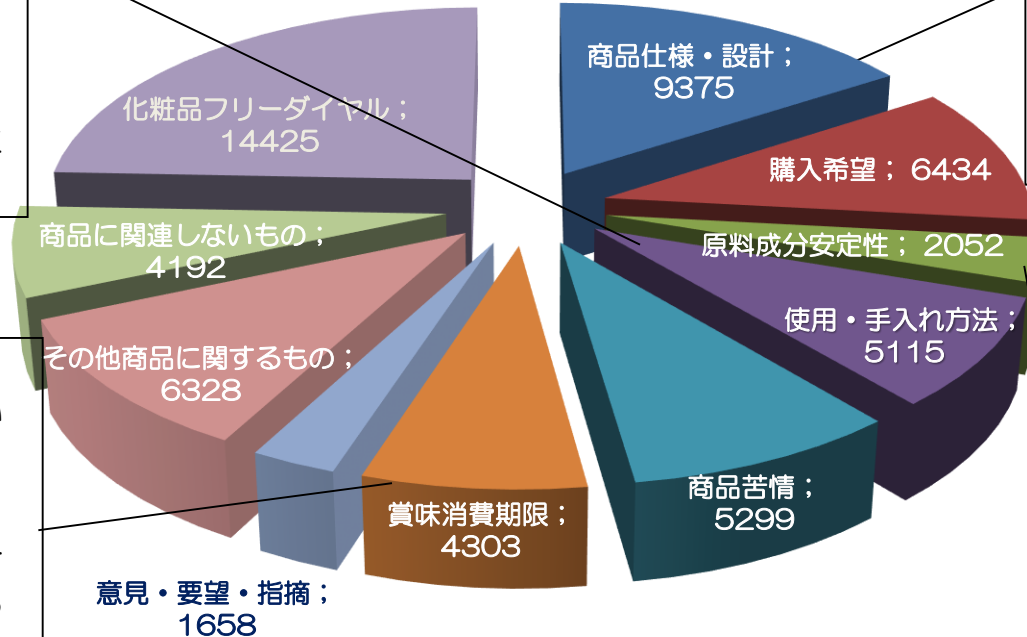
2015年度 全国生協組合員意識調査報告書より (約4,000人)

- 日本生協連組合員サービスセンターでは、商品の仕様や購入方法などさまざまな組合員からの「お問合せ」に対応しています。
- 2014年度は約6万件のお問合せをいただきました。



「使用・手入れ方法」
 ・500gって何合？
 ・これは洗って使いますか？
 ・赤ちゃんの離乳食に使ってもいいですか？

「賞味消費期限」
 ・過ぎたらどのくらいもつか。
 ・開封後どれくらいもつ？
 ・常温で置いて忘れてました。もう食べられませんか？



「商品仕様・設計」
 ・原材料の産地を教えてください。
 ・工場所在地は？
 ・亜硝酸ナトリウムは使われてませんか？

「原料成分安全性」
 ・〇〇産だけど大丈夫？
 ・（放射能）検査はしていますか？
 ・海外産だが、農薬の検査はしていますか？

1995食品衛生法改正

■ 背景

1. 食生活の多様化
- ① ライフスタイルの変化
- ② 食品流通の国際化
- ③ 安全・健康志向の高まり
2. 国際的ハーモナイゼーション
- ① ガットウルグアイラウンド合意

② 規制緩和

③ PL法の制定

■ 改正法（概要）

1. 国際化に対応した輸入食品監視
 2. 食品添加物基準の見直し
 3. 残留農薬・動物薬の基準策定
 4. 栄養成分表示の見直し
 5. 情報提供・苦情処理体制の整備等
- 厚労省：食品並びに輸入食品
 - 農水省：農産物（農薬）
食用動物（動物薬・飼料添加物）
生産者、生産段階の管理

2003食品衛生法改正 2003食品安全基本法の制定

■ 背景

- ① 危機意識の欠如と危機管理体制の欠落
- ② 生産者優先・消費者保護軽視の行政
- ③ 政策決定過程の不透明な行政機構
- ④ 専門家の意見を適切に反映しない行政
- ⑤ 情報公開の不徹底と消費者の理解不足

■ 改正法（概要）

1. リスクアナリシスの枠組み

- リスク評価（食品安全委員会）
- リスク管理（厚労省、農水省）
- リスクコミュニケーション（関係者/双方向）

2. フードチェーンアプローチ

3. 関係者の責務・役割

- 意見交換会
- パブリックコメント

4. ポジティブリスト制の導入

- 厚労省：食品安全部
- 農水省：消費・安全局

2009消費者庁・消費者委員会の設置

■ 背景（食品関係）

1. 緊急時対応（高濃度汚染された冷凍ギョウザ事件）
 2. すき間問題（こんにゃくゼリー）
 3. 情報の一元化
 4. 表示の一元化
- 消費者庁
 - 消費者委員会

2015年（名称変更）

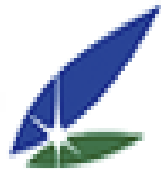
- 厚労省：医薬・生活衛生局
生活衛生食品安全部
- 農水省：消費・安全局
食品安全政策課

厚生労働省



農林水産省

The Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries of Japan



食品安全委員会

Food Safety Commission

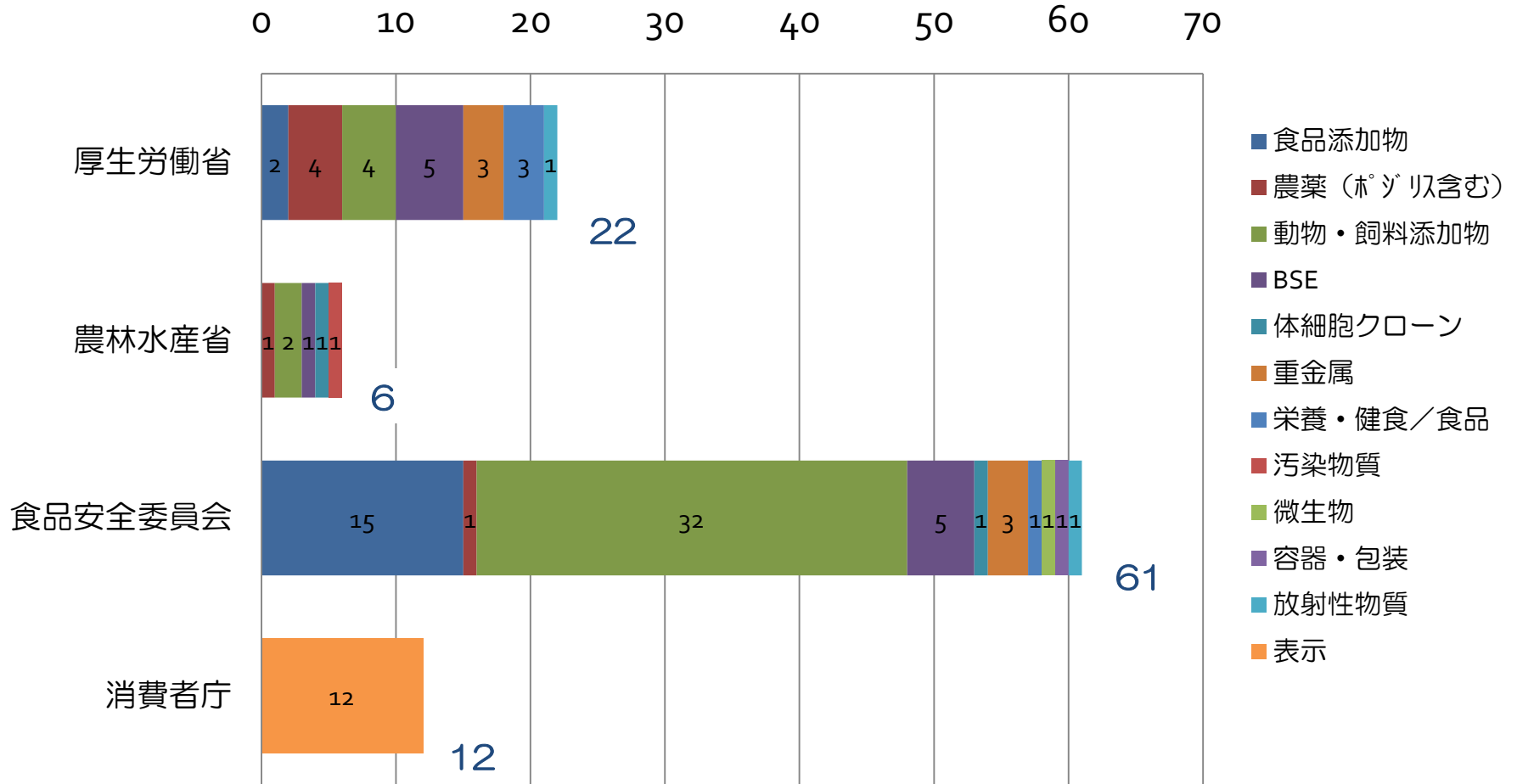
国民の健康と安全のために。

食品安全委員会は、
国民の健康の保護が最も重要であるという基本的認識の下、
食品を摂取することによる健康への悪影響について、
科学的知見に基づき客観的かつ中立公正に評価を行う機関です。



消費者庁

Consumer Affairs Agency, Government of Japan



放射性物質にかかわる政府への要請、食安委の運営計画、輸入食品対策等はカウントしていない。

- 実施時期 : 2015年7月14日~2016年2月22日
- 実施数 : 263世帯263サンプル (内、福島県100世帯100サンプル)
- 対象地域 : 岩手、山形、宮城、福島、群馬、栃木、茨城、埼玉、東京、千葉、神奈川、新潟、長野、山梨、静岡、愛知、岐阜、三重、福岡の19都県
- 測定方法 : 各家庭の2日分の食事(6食分と間食)を1サンプルとしてすべて混合し測定
- 測定器 : Ge半導体検出器
- 検出限界 : 1 Bq/kg
- 測定物質 : セシウム134、セシウム137、カリウム40
- 検査機関 : 日本生協連、コープ東北サンネット事業連合、コープネット事業連合、ユーコープ、東海コープ事業連合、コープこうべ、コープ九州事業連合商品検査センター



1. 食事の用意



普段どおりの食事もう1食余分に用意

2. 保管



1食分ずつバッグに入れて冷蔵庫で保管

3. 検査センターへ



2日分の食事、献立調査票などを送付

4. サンプルの均一化



検査センターのミキサーで均一化

5. 容器に詰める



容器に出来るだけ隙間なく詰める

6. 測定



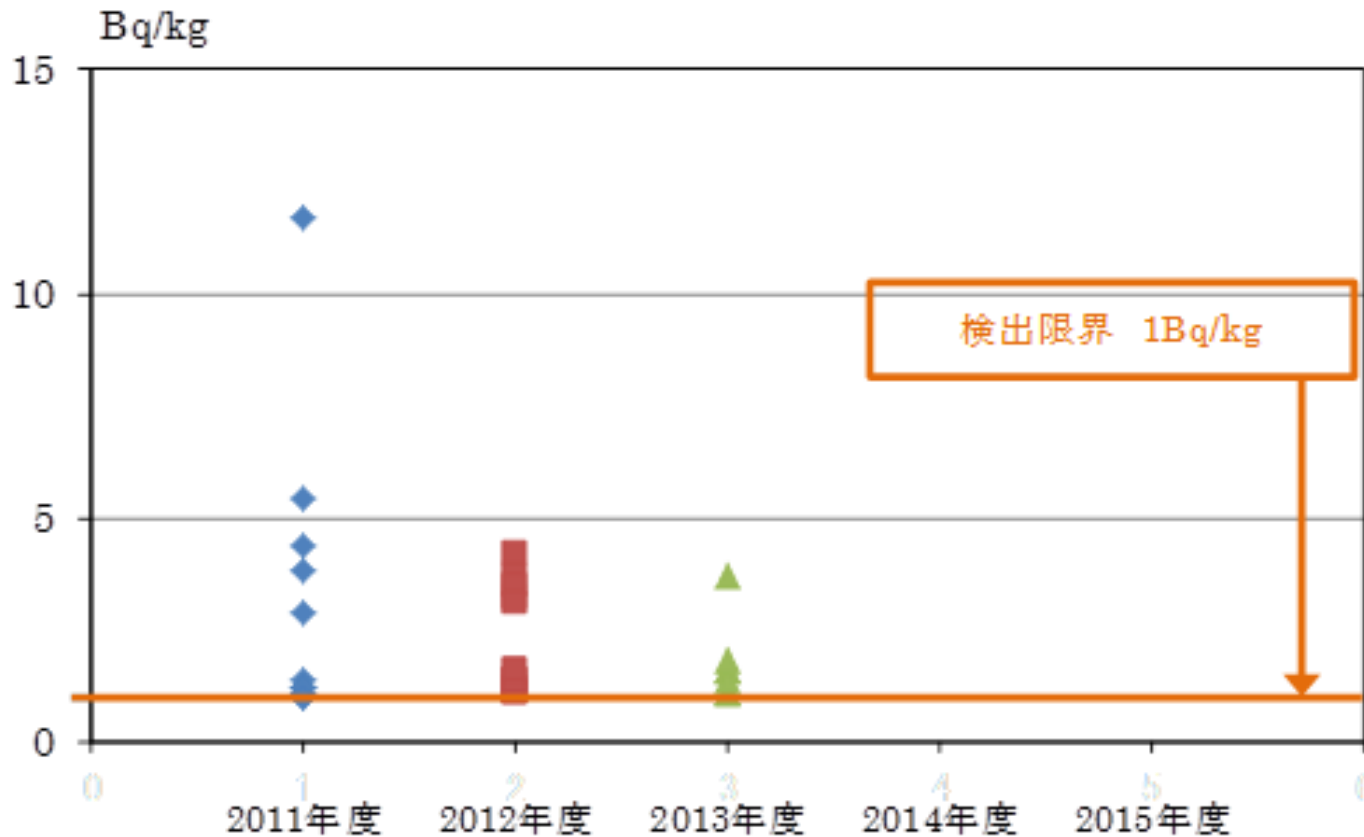
試料を詰めた容器を検出器にセット

7. 解析

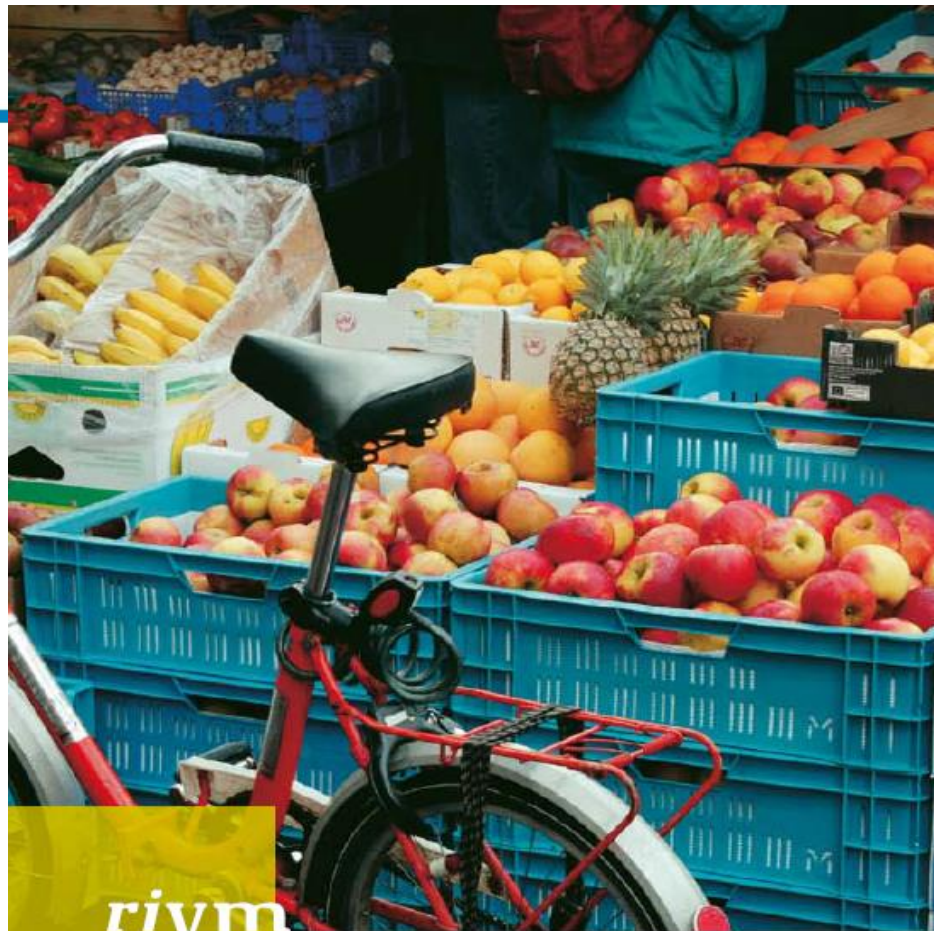


PCでデータを解析し、各放射性物質の濃度を計算

～19都県262サンプルすべて不検出～



※2014年度、2015年度は不検出



rivm

C.F. van Kreijl | A.G.A.C. Knaap | J.M.A. van Raaij (Editors-in-Chief)

Our food, our health

Healthy diet and safe food in the Netherlands



Our food, our health, Healthy diet and safe food in the Netherlands (2006)

オランダ国立公衆衛生環境研究所報告

DALYs 損失	食事要因	微生物汚染	化学物質汚染
30 万以上	不健康な食事		
10 万~30 万	5つの食事要因* エネルギーのアン バランス		
3 万~10 万	トランス脂肪酸 の超過 果物、 野菜、魚不足		
1 万~3 万	飽和脂肪酸の超過		
3 千~1 万		食品由来の微生物 による胃腸炎	
1 千~3 千			
300 から 1 千		食品中のカンピロ バクター	アレルゲン アクリルアミド
300 未満		O-157	多環芳香族炭化 水素

障害調整生存年数
(Disability Adjusted Life Years :
DALYs)

疾病等により死亡が早まることで失われた年数や健康を損なった状態で暮らす年数。DALYsは健康寿命の損失の目安であり、この値が大きいほど国民の健康への影響が大きい。

オランダ国民約1600万人に対して1年あたりに与える健康寿命年の損失

*5つの食事要因：飽和脂肪酸、トランス脂肪酸、魚、果物、野菜

影響大



影響小

DALYs 損失	食事			その他		疾病
	食事要因	微生物学的汚染	化学的汚染	他の生活習慣要因	環境要因	
30万以上	<ul style="list-style-type: none"> 全体として不健康な食事 (*1) 			<ul style="list-style-type: none"> 3つの生活習慣要因 (*2) 喫煙 		<ul style="list-style-type: none"> 心血管系疾患 (*訳注1) 全てのがん
10万~30万	<ul style="list-style-type: none"> 5つの食事要因 (*訳注2) エネルギーバランス (*3) 			<ul style="list-style-type: none"> 運動不足 		<ul style="list-style-type: none"> 冠動脈疾患 (*訳注3) うつ病 肺がん 糖尿病 アルコール依存
3万~10万	<ul style="list-style-type: none"> トランス脂肪酸の超過 果物、野菜、魚の少なすぎる摂取 			<ul style="list-style-type: none"> 飲酒 (*4) 		<ul style="list-style-type: none"> 交通事故 乳がん
1万~3万	<ul style="list-style-type: none"> 飽和脂肪酸の超過 				<ul style="list-style-type: none"> 大気中粒子状物質 	<ul style="list-style-type: none"> 統合失調症 前立腺がん インフルエンザ
3,000~1万		<ul style="list-style-type: none"> 食品中の微生物による胃腸炎 			<ul style="list-style-type: none"> 受動喫煙 	<ul style="list-style-type: none"> 上気道感染症 エイズ 胃腸の潰瘍
1,000~3,000					<ul style="list-style-type: none"> ラドン（屋内） 	<ul style="list-style-type: none"> 細菌性髄膜炎 細菌性性感染症 結核
300~1,000		<ul style="list-style-type: none"> 食品中のカンピロバクター 	<ul style="list-style-type: none"> アレルゲン アクリルアミド 			
300未満		<ul style="list-style-type: none"> 腸管出血性大腸菌O-157 	<ul style="list-style-type: none"> 多環芳香族炭化水素類 他の物質 		<ul style="list-style-type: none"> 種々の物質 (*訳注4) 	

出典：RIVM(オランダ国立公衆衛生環境研究所) (2006) Our food, our health: Healthy diet and safe food in The Netherlands, <http://www.rivm.nl/bibliotheek/rapporten/270555009.pdf>

- *1 ここで言う「全体として不健康な食事」とは食事摂取による全ての健康損失（心血管系疾患とがんに関連する5つのモデル化された食事要因）および肥満（正のエネルギーバランス）による一部の健康損失を指す。
- *2 「喫煙」「運動不足」「過剰な飲酒」の心血管系疾患、糖尿病、がんへの総合的な影響を指す。
- *3 エネルギーバランスは肥満の進行につながる食事要因である。肥満による健康損失はBMI を指標として用いてモデル化されている。肥満は運動不足によっても引き起こされ、それはこの表では「他の生活習慣要因」の分類にも入る。
- *4 適度な飲酒（男性は1～3 ユニット/日、女性は2 ユニットまで）は完全な禁酒と比べて、心血管系疾患を予防すると推定される。アルコール依存による健康損失は右のカラムに示されている。（※1 ユニットは10 ml（8 g）のアルコールに相当）
- *訳注1 心血管系疾患とは心臓または血管に生じる病気のこと（冠動脈疾患、脳血管障害、高血圧等を含む）。
- *訳注2 ここで言う5つの食事要因とは「飽和脂肪酸」「トランス脂肪酸」「魚」「果物」「野菜」を指す。
- *訳注3 狭心症、心筋梗塞等。
- *訳注4 本文中には特に記載はないが、ベンゼンなど様々な大気汚染物質などを指していると考えられる。

【前頁の注釈】

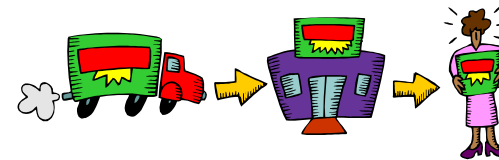
追加リスクの原因となる物質および物質群：影響のタイプと、摂取を避けた場合に得られうるDALYs の程度

物質群	影響のタイプ			摂取がゼロのとき得られるDALYs（不確実性を含むため概算で示した）
	急性	発がん性	アレルギー性	
食品中の各種たんぱく質			魚介類、牛乳、ナッツ、小麦	約 1,000
かび毒		アフラトキシン類		アフラトキシンB ₁ < 1
貝毒	下痢性貝毒、記憶喪失性貝毒			約 10～70
植物毒	アニサチン(*1)			< 1
硝酸塩／亜硝酸塩		ニトロソアミン類		ニトロソアミン類：約100～500
成長促進剤	クレンプテロール			約1
製造工程で生じる汚染物質		多環芳香族炭化水素類、アクリルアミド		多環芳香族炭化水素類：5～10、アクリルアミド：300～700

出典：RIVM(オランダ国立公衆衛生環境研究所) (2006) Our food, our health: Healthy diet and safe food in The Netherlands, <http://www.rivm.nl/bibliotheek/rapporten/270555009.pdf>

*1 ハーブティーに含まれる成分で、年間30 の中毒例（死亡例はない）が発生していると推定。

- 農場から食卓までの食品供給システム（フードチェーンシステム）



このシステムに対する

- 一貫性
 - 透明性
 - 公開性
- の点からの信頼感

ご清聴いただき
ありがとうございました